

第 7 回品川区長期基本計画策定委員会 議事要旨

日時：令和元年 9 月 9 日（月）14:00～16:00
場所：品川区役所 議会棟 6 階第一委員会室

1. 開会 2. 委員長挨拶

■委員長

皆さん、本日は台風で大変な中、また暑い中、お集まりいただきどうもありがとうございます。

第 7 回品川区長期基本計画策定委員会を始めさせていただきます。それでは前回の議事要旨の確認をいたします。資料 No. 1、第 6 回品川区長期基本計画策定委員会議事要旨について、事前に配付していますので、内容についてはご覧いただいているかと思えます。何か訂正がございましたらお願いいたします。

■委員

11 ページ、上から 3 行目にある「バスではなく大きな車」というのは間違えて、「バスよりは小さな車」というように修正していただきたい。8 人～12 人のバスを走らせたいという趣旨です。

■委員長

そのように訂正させていただきます。他にはございますか。ないようでしたら、ただいまの訂正も含め、委員会で確認が取れたということで、後日区の HP で公表いたしますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

3. 素案（案）について

*事務局より資料 2、3 について説明

■委員長

ありがとうございました。これまでの会議で出された意見にもとづいて、修正した内容を説明いただきました。これがパブコメに出す全体像になります。

今日はこの素案（案）についてご議論いただき、近日中に委員長、副委員長会議を開催する予定になっておりますので、それらの取り扱いを経て、パブリックコメントへと進めたいと考えております。ご意見のある方はどうぞお願いします。

■委員

計画素案の3ページの「④Society5.0を実現する視点」について、Society5.0は横文字にカタカナ（ソサエティ）を追記して、Society（ソサエティ）5.0としていただけますでしょうか。品川区民の誰もが分かるようなものを配慮して作り上げていきたいと思えます。

もう1点は、26ページの「現状と課題」の3つ目の○について、「産業構造の変化や～」の次に、ICTを入れていただいて、ICT(情報通信技術)、AI（人工知能）、IOT（モノのインターネット）と3つにしていきたいと思います。また、27ページ、「3 中小企業（地域産業）のチャレンジ（変革）と成長を支援する」についてもSociety5.0が出てくるので、カタカナを入れていただければと思います。

■委員長

ありがとうございました。東京都は先週「未来社会の論点整理」を発表しましたが、その時はSociety5.0を超スマート社会（ソサエティー5.0）と表現しています。表現については研究したいと思います。

■委長

小さな話ですが、3つあります。初めに6ページですが、「(1) 人口構造の変化への対応」について、福祉の分野では少子高齢化はしきりに言ってきたことですが、これからは少子高齢化に加えて、少子高齢化・一人暮らしというのが視点として重要だと思います。そのあたりを加えていただければと思います。

2点目は、49ページ、高齢者の施策ですが、「3 多様な入所・入居系施設の充実を図る」に、地域密着型サービス施設整備が1番出てきます。それはよいのですが、その後に介護保険施設の整備とあり、これはおそらく特養を指すのだと思われませんが、50年・60年は持つ建物であり、今後、要介護の高齢者が減っていく時代が来た時に、3千平米ほどの広大な土地の活用を考えると、小規模型の地域密着のほうが利用の幅が広がるのではないかと思います。重要な計画で明確に謳い、継続していくわけですので、どのくらい議論がされたのかを確認させていただきたい。

51ページの「2 地域での自立した生活を支援する」の具体的な施策の4つについて、読んでも意味がよく分かりません。たとえば「地域生活支援体制の整備」と「地域生活サポート体制の充実」とありますが、この2つがどう違って、何を言いたいのがよく分かりません。上の方に支援拠点と書いてありますので、支援拠点で、それをブレイクダウンしたものなのか、あるいは療育と家族支援ということなのかなと思いますが。また、「地域における障害者の活動の支援」の活動とはどういった意味なのかが分からず、「3 障害者の社会参加を促進する」とかぶってしまう印象を受けます。4つの表現についてもう一度確認していただければと思います。

■委員長

ありがとうございました。一人暮らしはその通りだと思います。平成の30年間に東京都全体では、一世帯あたりの人員は2.4人だったのが、1.9人に減ったと、住民登録人口ではそのような結果になっています。今一番進んでいるのは、少子高齢化よりも一人暮らしではないかということです。20年後には単身世帯が過半数を超えるという推計が東京都で公式に出ています。人生100年時代と最初に言っていますので、少子高齢化とは言わずにその中に気持ちを込めているということで、検討させていただくということでもよろしいでしょうか。

介護保険施設と小規模地域密着型の話についても、地域密着型施設の整備も介護保険でしますので、表現の問題があるかと思います。委員長・副委員長を中心に相談したいと思います。

51ページの地域支援体制の整備と地域生活サポート体制の充実についても、実務的な用語は別にして、計画の表現としては同じ意味にとられるのも確かだと思いますので、表現を検討させていただきたいと思います。他にご意見ございますか。できれば委員の方から先にご意見をお聞きして、参与の皆さまからは後ほどお伺いしたいと思います。

■委員

長期基本計画素案（案）が示されました。これまで様々な提案や修正、改善を求めてきましたが、品川区民にとって重要な問題が抜け落ち、一方で中止すべき事業を進める計画であり、これを素案とすることに反対したいと思います。策定委員会の期間を延長し、引き続き議論を重ねることを提案したいと思います。

重要な問題が抜け落ちている点では、まず、日本国憲法の理念や地方自治法の本旨について全く位置付けがない。そればかりか10年前の長計でも高齢者福祉・障害者福祉と定義し、前回の長計資料たたき台でも高齢者福祉・障害者福祉と記したものを、今回は福祉を取って環境づくりに変更しました。これは大問題だと思います。社会福祉とは憲法25条にある生存権を補償する手段として制度化してきたものです。この福祉を環境づくりに変えるということは、憲法の規定から品川区が考えるレベルに置き換え引き下げるものであり、福祉の根本的な変質です。憲法や地方自治法、福祉の位置付けはないにもかかわらず、安倍政権の提唱するSociety5.0を急遽大きく明記するというような国のいいなりはやめるべきだと思います。憲法や地方自治法を位置付けず、国際条約である障害者権利条約もなく、福祉という言葉もはずし、福祉は唯一、地域社会の実現で出てきますが、行政による福祉から地域の助け合いに置き換え、福祉を大きく変質させるものであり、この行政計画は根本から改めるべきだと思います。

また、羽田新飛行ルート計画に反対する姿勢が全くないばかりか、もはや受け入れ、そればかりか何の対策も持たないというのは大問題だと思います。来年から羽田空港への着陸機が市街地を超低空飛行することを問題とも捉えない、反対もしない、被害調査や実態調査もない、これはひどすぎると思います。羽田新飛行ルート計画の撤回を掲げて、国と

の交渉、区民への影響調査等を盛り込むことを改めて提案します。

次に高齢者福祉では、500名の方が申込み、8割の方が特養ホームに入れない状況であるのに、これを改善する計画がありません。これでは特養ホームに入れない状況がより深刻化するだけです。定員を29名とする少人数の地域密着型ではなく、80名前後が入所できる特養ホームを中心に変えることを改めて求めたいと思います。

障害者福祉ですが、通所・入所系施設の定義が追加されましたが、ここに就労Bや放課後デイサービスが含まれるのかが、計画上は不明なので、施設名を明記して、必要な行政需要の把握と整備計画を明記していただきたいと思います。

最後に中止すべき事業ですが、福祉を変質、後退させて必要な介護や障害者施設の計画が不十分の一方で、超高層の駅前再開発や、29号線などの特定整備路線など、ビルと道路づくりは具体的な地域を示してさらに進める計画が示されています。地方自治体が行うべき大切な仕事は地方自治法にあるとおり住民福祉の向上です。医療や介護、学校教育も含め社会福祉を後掲に追いやり、一方で大崎、五反田、大井町、広町、天王洲、品川南、武蔵小山、戸越公園と具体的に地名を挙げて、超高層のビルづくりをこれからも100億円200億円と税金を使ってどんどんビルを作っていく。災害対策や快適な道路環境の名目で500世帯もの住民を立ち退かせる29号線の整備など、20メートル道路を含め3路線に800億円もの税金を使ってどんどん道路を整備する。こうした無駄使い、環境破壊、住民追い出しの計画はやめるべきです。大事なこと、必要なことはせず、無駄なこと住環境を壊すことは進めるこの素案に反対です。

■委員長

ありがとうございました。ただいまのご意見も正副委員長会議で検討させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

■委員

今までの議論の中で数値目標が出てきていたと思いますが、具体的な施策の10年間の数値目標であったり、6ページのPDCAによる計画の進行管理での経過数値などを総合的にどのようにとらえればよいのか教えていただきたい。

■事務局

数値目標は、皆さま方のご意見をいただいて、施策の内容や考え方が定まってから作るということで、今、内部で対応しております。パブコメの後、計画を策定して、冊子を作成する段階になれば、政策の柱ごとに、政策の柱を表すものを数値目標として示したいと思っています。これまでの策定委員会でアウトカムの数値のご意見もいただいていましたが、なるべくアウトカムに近づけるかたちで出せないか、検討しているところです。今回の素案（案）について概ねのご了承がいただけましたら、施策の取り組みが定まりつつあ

るといふことで、もう少し具体的な検討を庁内でさせていただくという段階です。

■委員

全体的なことですが、たとえば 45 ページの「3 地域とともにある学校づくりを推進する」に、コミュニティ・スクールとありますが、この中黒「・」が、その下の「具体的な施策」の項目出しの「・」とまったく一緒なので、見づらいです。項目出しの「・」を変える等の表現を工夫していただきたいです。他にも「発展・充実」などたくさんのところに使われていますので、ご配慮いただければと思います。

また、その「具体的な施策」の中の「品川コミュニティ・スクールの整備・発展」は、全体的に見て、箱もの整備をしていくということであれば、整備ですが、事業であれば充実なので、「充実・整備」のほうがスマートではないかと感じました。福祉政策で言うところの整備とは事情が違ふと思いますので、そのほうがよろしいかと感じました。

■委員長

どちらも見せ方の問題で、行政は整備という表現を使いがちですが、たしかに意味合いが違ふしますので、表現を検討させていただきたいと思います。

■委員

今の 45 ページについて、上から 7 行目、「伝統文化理解の促進・読書活動の充実」の中黒「・」の前に、スペースを入れたらよいのではないのでしょうか。項目は、アスタリスクや大きな黒丸にするなど工夫したほうがよいのではないかと思います。

■委員長

今回もそうするかはこれからだと思いますが、前は 2 色刷りだったと思います。表現の仕方の工夫で違ふてくると思いますので、検討したいと思います。他にございますか。

■委員

素案（案）をまとめていただき、ありがとうございます。これまで公明党は品川区長期基本計画の中で SDG s の理念をしっかりと位置付けてほしいということを経々なところで問題提案をさせていただいてまいりました。SDGs、発展途上国のみならず、先進国、すべての国際社会の中での開発目標となりますが、SDGs の 17 の目標と 169 のターゲットの中で、これから品川区が進めていくそれぞれの施策が目標の中のどこに当てはまるのかを一つひとつ明確にさせていただきたいということをご提案させていただきたいと思います。

■委員長

ありがとうございます。SDG s の話題は今までも出てきていますが、表現の仕方について、

ただいまのご意見も含めて、正副委員長会議で議論させていただきたいと思います。

■委員

29 ページの「10年後のめざす姿を実現するための主な取り組み」について、「1 品川ならではの観光コンテンツを充実する」の具体的な施策にある「水辺を活用したイベント開催や散策ルート設定」は、「水辺を活用したスポーツ施設や観光施設およびイベント開催や～」と文言を加筆していただきたい。意味を混同されるかもしれませんが、よろしく願います。

「4 魅力的な環境を創出する」にある「フリーWi-Fi 等の整備・充実」は、SNS が発達した今、すでに古いと感じます。できれば「来訪者が行きたいところへ一人でも行けるような情報・案内・告知の充実」というような意図が含まれたらよいと思います。

次に、46 ページ「青少年の成長と自立の支援」の「現状と課題」で、「貧困問題、特にひとり親家庭の貧困・・・」とありますが、「10年後のめざす姿を実現するための主な取り組み」に、貧困世帯への具体的な施策が見当たりません。お考えいただければと思います。

■委員長

ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。他にございますか。各分野からご意見が出されたかと思えます。参与の先生方、いかがでしょうか。

■参与

PDCA の話がありましたが、ここに書くこと自体、意味があると思います。具体的に行政評価をして見直していくことについて、どのレベルをどのタイミングで見直していくのかが明らかになっていないといい加減になってしまいます。超スマート社会ということを考えて、PDCA を考えると、ICT を使って、オンタイムでデータがとれて、各部署が PDCA を回せるような仕組みづくりができればよいと思います。企画のほうでさらにどうするかたちで具体化できるか、ご提示いただければと思います。

■参与

3点あり、まず1点目は、委員長のほうから一人世帯の話が出まして、素案では8ページに書いてありますが、既に一人暮らし世帯が55.5%になっています。品川区がそうだったということを知って、そういう生き方を多くの方が選択してしまっていることを前提に考えていかなければならない時代になってきているということで、非常に重大な話だと思います。先ほどのご意見も踏まえて、調整していただきたいと思いました。

2点目は、11 ページに世論調査等の結果がありますが、高齢者福祉を大事にすべきという意見と子育て支援を大事にすべきという意見がかなり拮抗しています。世論調査では子育て支援のほうが上です。昔はいろいろな自治体の一般的な調査を見ても、防災よりも高

高齢者福祉が上というのが一般的であったと思います。ですから、地域の取り組みも高齢者福祉面に触れてきたのではないかと考えています。ニーズの上では子育て支援がかなり重要になってきていて、地域コミュニティによっては、ニーズの変化に対応できていないところもあり、したがって自治会の加入率も下がるという現象が見られます。品川区の町会のようにそういったニーズの変化にいち早く対応しておられる町会もかなりあると伺っております。やはりこうした動きを十分に踏まえて、計画の中でも青少年分野や子育て分野で地域とともに取り組むべきという姿勢を重視していくことが大事であると思います。素案の中ではそういったことは一応書かれているのかなと思います。

3番目はそれに関連して、委員会で縦割りのというご意見が出ています。組織は縦割りにできているのでどうしても縦割りに見えますが、資料3にもとづいてみても、それについて具体的な施策の記述の上では、十分に配慮されていてよろしいかと思います。72ページ以降の「変化に対応する持続可能な区政運営」について、ここで、役所側の態度として、横の連携を推進する文化を醸成するなど、横連携に関する記述を増やしてはどうかと思います。73ページの「6 区民に信頼され実行力ある人材育成を推進する」に、「組織横断的な課題に広い視野で取り組み、」という文言があり、これで十分かなという気もしますが、72ページの「2 協働によるまちづくりを促進する」で、協働だ、協働だと役所から言われると、地域の側は個別に対応せざるを得ないということで大変ですので、もう少し工夫して書いていただけるとよいという気がいたしました。

この前も申し上げましたが、町会・自治会の条例をつくる検討会に参加させていただき、防災、地域振興、福祉の分野が一緒になって議論をし、地域コミュニティ向けの部署で横割り分担といたしますか、横の連携を深める効果ができたかなと感じました。庁内文化の形成をより進めていけるとよいと思います。

■ 参与

3点ほど、検討の材料にさせていただければという案件でございます。SDGsは大事な視点だと思っています。第1章総論の基本的な考え方で、4つの視点が示されていますが、さらに横串を通すという意味では、SDGsというキーワードを使うことで包括的な視点がもう少し強調できるかなと思いますのでご検討いただきたいと思います。Society5.0については、カタカナにしても分からないのではないかと思います。大事なキーワードですので、品川区におけるSociety5.0の意味が伝わるような解釈・説明をつけられればよいという気がします。

43ページの子ども関連のところ、「3 子育て支援・教育機能を拡充・強化する」の「具体的な施策」ですが、1つは情報提供体制の充実ということと、区立保育園・幼稚園等の整備について、何が違うのかがよく分かりませんが、おそらくこれは一つにくることができ、かつ区民にとってはすべて区立に行けるわけでもありませんので、区立にこだわることなく、たとえば乳幼児教育保育施設の整備・充実というような表現のほうがすっきり

するのではないのでしょうか。それから具体的な施策とって、具体的に踏み込むことができないにしても、乳幼児教育・保育の充実とありますが、前段で出てきているこれだけの大きな課題は必須ですので、これは乳幼児教育保育の質の向上というふうにしていただいたほうが、よりメリハリがあってよいのではないかという印象を受けます。

■ 参与

SDGsについては色々な意見がでています。52 ページの一番下のところに「SDGs への理解」と出ていますが、それ以外のところには出ていません。全部に入れるのは難しい話だと思いますので、例えばそれぞれの施策が SDGs のどこに入るのか、前のほうにそのマッピングができるような図を作るとか、あるいはそれぞれの施策のところに SDGs の 17 のターゲットのどれが当たっているのかを記載すると分かりやすいのではないのでしょうか。

2 点目ですが、59 ページの「10 年後のめざす姿を実現するための主な取り組み」ですが、1 番目にある受援体制について、受援体制というのは受け入れなのですが、他の自治体への避難も受援体制にあたるのではないのでしょうか。首都圏直下の災害が起きた時には壊滅的なダメージを受けますので、東京都の中の他の市町村に避難することもあるかと思いますが、それ以外の遠いところ、たとえば埼玉県などへの避難は十分ありうると思います。東日本大震災の時には大宮のスーパーアリーナに 7 千人の避難者が来て受け入れていましたので、いろいろなところでそういった事象がでてくるかと思われます。他自治体への避難も含めた受援体制という項目を入れられるのであれば、入れたほうがよいのではないかと思います。

もう一つですが、59 ページの「3 地域の防災力を強化する」について、アメリカでは FEMA（フィーマ）という防災の業務をしている機関があります。その訓練の中に CERT（サート）という、日本で言うと自主防災組織の訓練メニューがあります。そういったものをこの中にいれるべきではないかと思います。最近の災害では「自らの判断で避難する」、「命を守る行動をとる」など、個人にうったえる避難警報が多く出される傾向なので、たとえば自らの判断で活動するというような訓練も計画に含めたほうがよいのではないかと思います。防災区民組織というのは、自主防災組織も含めているという理解でよろしいのでしょうか。そうではないのであれば、自主的ですか、自らの判断でということを強調する意味で、防災区民組織及び自主防災組織をはじめとする、というようにしたほうが個人にうったえる流れになってよいのではないかと思います。

■ 参与

先ほど 45 ページでのところで 2 点、伝統文化理解の部分とコミュニティ・スクールの整備についてご指摘いただきましたが、これについてはそうかなと思っております。特にコミュニティ・スクールは始まったばかりで、箱というよりは形ではあるのですが、充実まではいかない段階なので整備かなということで、そちらは文言の問題ですのでお考えいた

だければと思います。

あと2点「3 地域とともにある学校づくりを推進する」の2つ目の○について、新しく前回の案から加わっている部分なので、少し文言を整理していただきたいと思います。前から読んでいくと、「家庭や学校、大学との連携を進めるとともに、」で一回切れて、「地域との協働によりすまいるスクール事業の充実を図る」と読めてしまうので、すまいるスクールから見たときに、家庭が入り、学校が入り、大学が連携して、そして地域が協働するという意味合いですので、「ともに」の前後がこのままだと違う意味合いに読めてしまいますので、お考えいただければと思います。

2点目は「4 良好な教育環境をつくる」について、これは言葉使いの問題ですが、学校改築について、子どもが増えているので、教室、学校が増えるということが入るので、増改築となるのか、それとも改築の中に増築が含まれるのかなど、そのあたりをご検討いただければと思います。

■副委員長

各委員にはこれまでの委員会の場でもたくさんご発言いただいて、それを今日の素案(案)に最大限反映しようと努力して、事務局で作ったということだと思っておりますが、なお反映しきれていないところがありますので、正副委員長会議で議論し、事務局とともにどのように反映していけばよいか検討してまいりたいと思います。いくつかのご指摘の中でも代表的なものであるSDGsについては、これまでも何回も委員会でご指摘があったにもかかわらず、大事なことは分かるのですが、残念ながら原案では受け止め切れていませんでした。今までの縦割りの位置付けの中で、どこかで整理しようという視点に立ちますと、なかなかどこにはめ込んでよいのか、最終的に最後の部分にはめ込んだのですが、17の総合的な中身であるSDGsがどこへ行ってしまったのかと指摘されれば、これはもったもたないことで、これについてはもう一回事務局も含めて考えていきたいと思っております。その中で重要な示唆をいただいたのはマッピングする形で示すという方法で、SDGsの様々なものが個別の施策や中身のどこに関係しているのかを分かりやすく示すことができればよいなと思っています。ただこれは、縦割りの思考に馴染んだ我々でやると、また縦割り化していくので努力はしたいと思っています。

2～3ページにある「未来につなぐ4つの視点」が、全体に繋がるような視点として3つの体系とは違うかたちで整理できないかとやってみたのですが、大括りになってしまってあいまいになってしまったということと、たとえばここでSDGsを入れておけば、もう少しはっきりしたのかもしれないが、SDGs以外にもジェンダーの問題など、様々な問題を委員の方からご指摘されていたのではないかと思います。もう一度横串的なマッピングを、最初の方か、後ろの附属資料なのか、示すことができればと考えています。

4つの視点をまとめるのはなかなかむずかしく、人生100年時代やSociety5.0と書いてみましたが、Society5.0は分かりにくいと言われ、どうしたものかと、考えていきたいと

思います。私は個人的には Society5.0 や人生 100 年時代という言葉は、書いてしまった後で、国が次々と新しいプランを考え出して、10 年後には使われていないのではないかと考えるのですが、品川区が恥をかかない息の長いコンセプトをまとめられればと思います。

参与から、72 ページ以降が区政運営という形で、横串の話が入れられるのではないかとご指摘もありました。前半と第 2 部をうまくかみ合わせることができればと思います。また、PDCA もここにも関わる話なのではないかと思しますので、考えさせていただきたいと思います。もう一つは、前回までの議論で、「地域」「人」・「安全」の順番について、「人」が先ではないかという議論がありました。まず個人に対する行政の働きがあって、地域に対する働きになるのではないかということで、これについては非常に重要な問題です。一人暮らしが増えているということも関係して、個人というか単身世帯をターゲットにしていかなければならないという大きな流れもあるので、順番も事務局と相談しながら、正副委員長会議でも検討したいと思いつつながら、宿題をいただいたということで作業していきたいと思います。

■委員長

ありがとうございました。副委員長からお話がありました論点のうち、特に「人」が先か、「地域」が先かについて、最後は私たちが決めざるを得ないのですが、委員の皆さんでご意見があれば伺っておきたいと思つています。一度この議論があった時に、私はどちらもあり得ると言っていたかと思つていますが、実際にどちらもあり得るのだと思つています。少なくとも、4 ページの「地域」と「人」と「安全」の図は「地域」が一番上に来ていて、「地域」が一番大事だと言っているように見えますが、「人」が一番大事で、そのための手段として地域力を強化するという考え方がありますので、そういった意味でいうとこの図は少し右にまわして「人」があつて「地域」と「安全」があるというように、柔軟にとらえられるかたちにしたらいと思つています。また、編集の仕方として、1-1 に地域分野がくるのか、人の分野がくるのか、結構ご意見のあるところかもしれませんし、施策を掲載する順番については、大きな論点です。最初に「人」がきても抵抗はないのかもしれませんが。いつも同じ順番で長期計画を作る必要がないので、副委員長や委員、参与からも指摘があつたように単身世帯が増えるというのは、今回の長期計画の大きな重点です。それによって地域の重要性はとて増してくるということがあり、そういう意味では「人」が先にくるということもあるかと思つています。また、項目を並べてみると、「人」の分野のボリュームがあるので、第 1 章を「人」にするというのも一つの考え方かと思つています。委員の皆さまのご意見があれば承っておきたいと思つています。

■委員

最初に示されたときに素直に「地域」が先なのかという気持ちで資料を読んでいましたが、「人」が先ではないかというご意見を伺つて、その時はそのとおりだなと感じました。

ただ、そのあといろいろな意見を伺ったり自分なりに考えてみたら、「人」が一番というのは、ある意味最も当たり前のことで、個人個人、一人ひとりが大切にされた上で、品川区として何を打ち出していくかということを考えると、個人的には一人の世帯が多いということに対しても地域がどれだけ魅力的かというのを品川区らしさという意味では打ち出すのがよいのではと思います。

■委員長

全体を通じてどうしてもというご意見があれば承りたいと思います。ないようでしたら、本日のご意見を受け止めて、近日中に委員長・副委員長会議を開いて、パブコメに出すものを決定するという事で異議はございませんか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。事務局から連絡事項等、お願いいたします。

4. その他

■事務局

*事務局より資料4について説明

5. 閉会

以上